

「有田町過疎地域持続的発展計画（素案）」パブリックコメントの意見要旨  
と町の考え方

【意見要旨①】

- ・若い世代の地域づくりへ関わりについて

SNS 等のメディアの特性として関心のあることが優先して表示されることがあり若い世代に期待するほど届くかどうか分からない。

物理的に目に留まったとしても、内容や資料が判りにくければ、読んで理解するのに時間がかかり、面倒くさいイメージがつく。内容が理解できたとしても、実際に行動するには更にハードルが高い。

有田町過疎地域持続的発展計画の資料についても、目標や理想は何か、なぜその目標になるのか？現状は目標と比べてどうなのか？なぜ目標と現状に差が生じているのか、何を変えると現状を目標に近づけられるのか、対策を実行すると現状が目標に近づくのは何故か？等が判りにくい。

【町の考え方①】

ご意見いただきありがとうございます。

SNS 等の活用につきまして、ご指摘の特性のとおり、いくら SNS 等で情報を発信しても、相手が興味を持ち情報を探さない限りあまり効果を発揮できません。現在のところは少しでも多くの方へ情報が届くように、複数の情報発信媒体の一つという活用方法となっています。SNS 等の活用については、今後も活用方法の研究・検討が必要であると考えます。

情報（資料等）の分かりやすさにつきましては、若い世代の方に限らず、全ての世代の方へ分かりやすく伝えることは重要であり、概要版などで対応していくことも必要と考えます。

【意見要旨②】

- ・多様な連携強化の推進について

得意分野で役割分担し連携した方がよい。日本全体でほとんどの自治体の人口が減少している。

日本全体の人口が減少傾向にあるのだから、ある地域の人口が増えると別の地域の人口が減ることになる。市町村単位の計画ではなく、住居地域、仕事場、商業地域、医療（ビルや狭い地域に各クリニックや検査センターが集まる）など、ある程度広範囲の地域で役割を分けるのはどうか？

単独自治体で全ての役割を担うと、不得手な領域にも予算・人材等の資源を投入すること

になり非効率。

近隣各自治体の比較的優位な得意領域を伸ばし、不得手な領域は近隣自治体のサービスを利用する方が効率的ではないか。

有田町は住居地域（ベッドタウン）とする場合は、周辺地域の商業施設や職場に通勤するなどを検討する。その移動のためにバス等を運行し、商業施設へ顧客を運ぶ代わりに、費用をある程度負担してもらおう等を検討する。

交通弱者対策にもなり、自家用車などの交通量が減れば、渋滞や交通事故の確率を減らせる。

SDGs など環境視点でも交通量は減らした方が良い。人口が増えれば町内での消費活動増加も見込める。

#### 【町の考え方②】

ご意見いただきありがとうございます。現在、有田町におきましても、近隣自治体との地域間連携を様々な形で検討・推進がなされているところです。ご意見いただきました具体案につきましては、今後の地域間における連携において、それぞれの地域が持つ特性に合わせた連携を行い圏域としての発展を目指していけるよう、取組の参考にさせていただきます。

#### 【意見要旨③】

・災害関連での役割分担について

防災観点では武雄市は標高が有田町より低いので水没の危険性が高い。そこで、有田町に一時的に避難してもらうのはどうか？

近いので同時に同様の災害が発生する可能性が高いが、地理的特徴の差で被害にも差が生じると考える。

東京では民間企業で帰宅困難者が一時滞在可能になっている。企業を誘致する場合は、一時的に避難者を受け入れてもらうのはどうか。

#### 【町の考え方③】

ご意見いただきありがとうございます。災害発生時の一時避難等における地域間及び民間企業との連携につきまして、災害対応体制の確立等の課題があるかと考えますが、今後の災害対応業務の参考とさせていただきます。

#### 【意見要旨④】

##### ・コミュニティ活動の推進について

空き家などを店舗兼ミーティングスペース等として利用し住民の課題相談や得意分野を活かした解決、講座開催などをして住民の得意分野の発見や、つながりを促進しつつ、地域の課題解決や地域づくりが身近になるようにしてはどうか。

その中で作業依頼や買物代行等の需要と供給のマッチングが可能になるかもしれない。但し、事故やミスなどの発生も考慮が必要になる。上記周辺地域へのバス等の待合場所としても利用することで、待ち時間に交流が生まれるかも。

#### 【町の考え方④】

ご意見をいただきありがとうございます。空き家を活用した店舗の出店など、一部民間の取組等が進められており、町としてもサポートをしていきたいと考えております。コミュニティ活動の推進へも寄与していけるよう参考とさせていただきます。

#### 【意見要旨⑤】

##### ・企業誘致に関して

有田町に販売目的で出店する民間企業は少ないのでは？

→販売目的以外で進出したくなるか？

→製造拠点や物流拠点としては地理的に輸送費等が高くなるのではないか？

→リモートワーク等が可能であれば地理的制約はあまり受けない

別の地域で販売するので有田町の人口が少なくても問題ない

→空き家などをリモートワークスペース等にできないか？

災害時には避難場所としても使えるか？

#### 【町の考え方⑤】

ご意見いただきありがとうございます。これまで販売店等の小売業企業からの進出の相談はありません。有田町では製造業やインターネット付随サービス業などに補助金制度を設けており、佐賀県と一体となって誘致を推進していますが、興味を示す企業からの相談はいただいている状況です。

物流の側面から考えますと、佐賀県東部に近いほど有利となりますが、土地の費用が高額になる傾向にあります。インターネット付随サービス業などのIT企業では地理的制約があ

まりなく、また成長産業でもあり、都市部での人材確保の競争が激しく、人材確保、採用面での課題を抱えていることから、地方での採用に力を入れている企業が増えてきており、こうした企業からの進出の相談等も増えてきています。

リモートワークスペース等については運営者等が必要となりますので検討が必要ですが、空き家のオーナーが空き家を貸オフィスにする取組を現在行っています。災害時の避難場所として利用できるかは、空き家のオーナー及び利用者との協議、災害対応体制の確立等の課題があります。

#### 【意見要旨⑥】

##### ・有田焼事業について

日本の磁器発祥の地として存続した方が望ましい。

デザインや利用シーン等をコンピュータを用いた3次元モデルで実現することで、発注者や利用者と生産者でデザインや利用シーンの認識合わせができるのでは？

利用シーンを販売サイトに掲載してショールームのように見せることで購入意欲を高めることも可能か？

3次元モデルから製造工程につながれば、製造コストや納期が短縮可能になるかもしれない。

#### 【町の考え方⑥】

ご意見いただきありがとうございます。3次元モデル等の活用につきましては、窯業への活用も可能であると考えています。企業誘致の面からも、そういった技術を持った企業と焼き物産業の橋渡しが必要ではないかと考えています。

#### 【意見要旨⑦】

##### ・地域における情報化について

3D都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイトのようにデジタル空間にモデルを作り、シミュレーションや検討をすることで、現実の課題解決に役立てることが可能かもしれない。地図上で出来事を可視化したり、人や物事、因果関係などのつながりを可視化することで、新たな気づきを得られるかもしれない。

**【町の考え方⑦】**

ご意見いただきありがとうございます。ご提案いただいた内容は、行政の課題解決等に活用できるかと思っております。今後の取組の参考とさせていただきます。

**【意見要旨⑧】**

・教育の振興について

動画や物理シミュレーションソフトを教育教材として活用することで、理解が進むのではないかと

パソコンやタブレットで関数計算やグラフ描画ができる数学学習ツールを活用してはどうか。

**【町の考え方⑧】**

ご意見いただきありがとうございます。現在、GIGA スクール構想の取組により、全ての児童へタブレット端末の整備が完了しています。今後の学習において、ご意見いただいた内容等の様々な教育ツールを活用していくことになります。